

ねそ

白川郷荻町集落の自然環境を守る会 発行 平成20年 3月号

つまごじゅく まごめじゅく 妻籠宿・馬籠宿視察研修に学ぶ

2月28日に、守る会主催の妻籠宿・馬籠宿視察研修を開催しました。30名もの方々にご参加くださり、実りある研修を行うことができました。妻籠宿は荻町地区が昭和46年の住民憲章設立や守る会結成等集落保全の礎を築く際にご教授いただいた地区であり、その頃より保全活動の中核となってみえる妻籠を愛する会理事長小林俊彦さんより貴重なお話を伺う機会を得ました。79歳とは思えないパワーあふれるお話から、白川に対する深い愛着とともに「今のままの荻町ではいかん！！」という叱咤激励をいただきました。以下に研修での小林さんのお話と研修に参加されたみなさんから寄せられた感想を紹介し、研修報告といたします。

荻町は原点にかえれ！！……小林理事長のお話より

妻籠宿は、街道沿いの集落保全とともに、周りの山々の木々を伐採することのないよう広い範囲にわたって環境保全を行ってきた。規制されなかった山は伐採が進み、まさに危機一髪であった。文化財と集落保全で一番怖いのが火である。そこでプロパンガスとガソリンを街道沿いから排除する運動を展開した。プロパンは倉庫でありガソリンは車のことである。それとともに特産物販売を促進しながらも、集落景観を損なわないよう軒先に商品を陳列しないことの徹底、公共駐車場の整備と個人駐車場経営の完全禁止、車の乗り入れの時間規制等を行ってきた。それらがあるからこそ、今の妻籠の景観があるのだ。

竹富島や小樽、函館をはじめいくつもの地区の集落保全に関わってきたが、白川村とは「下々の女」の著者江夏美好さんとの交流からはじまった。詳しくは白川村史にも載っているのでそちらをみていただきたい。荻町集落をはじめて見たとき、ここは妻籠以上の文化的価値をもつ集落であると確信し、先人の偉大さと合掌造りと集落景観を守るとする住民の姿勢に共感した。しかし、現在の荻町の景観を見ると、これでいいのかと苦言を呈したくなる。荻町展望台からの景観が変わった時は世界遺産の危機であり引いては何の魅力のない観光客のよりつかない地域になってしまう。マスコミに叩かれて治すのでは遅い。そのためは、交通問題、集落内の個人駐車場問題(=農地の保全)、文化財としての集落景観(土産物や看板)について、早急に解決する取り組みが必要である。白川が好きだから言うんだ。今やらずしていつやる！！原点へかえれ！！

荻町も絶対できるはず！！……参加者の感想より

- ・小林さんの強いリーダーシップに感銘。徹すること続けることは大事である。荻町も見習いたい。
- ・街道筋の土産物店の軒先には、まったく土産物が出ていない。品のある素敵な街道宿場町の家並みが残っている。荻町でも絶対にできるはず！！絶対にしなければいけない！！
- ・家並みの美しさが素晴らしい。ただ、幾世代の家族が住むには大変なのかと思った。若者の姿をあまり見かけなかったが、住民にもぜひお話を伺いたい。
- ・駐車場が集落内ではなく、公営駐車場が分散している。荻町も南北に駐車場をつくるべきだ。
- ・馬籠の藤村資料館は見応えがある。街道の石畳は美しさはあるが文化財としての重みがない。やはり本物のもつ力はすごい。荻町も地区内にある本物を無くさないようにしないといけない。



【小林さんの講話】



【土産物店の様子】

- ・荻町が見習うべきことが沢山あった。店並みや駐車場問題は、妻籠に見習うべきだ。
- ・集落の景観保全是、白川にとって一番大切にしなければいけないことだ。自分だけの欲にこだわって子孫に残すべきものを壊してはいけない。私欲を押さえ原点にもどり結の心や連帯感をもちながら、荻町を守っていききたい。

(たくさんの感想をお寄せ頂きありがとうございました・・・和田)

世界遺産マスタープラン検討住民会議始動！！

昨年より伝統的建造物群保存対策協議会が、3年間の計画で始動しました(ねそ6月号参照)。さらに村ではこれに加え、伝建地区を包括した白川郷世界遺産合掌集落の継承にむけた基本計画を作成する世界遺産マスタープラン策定委員会を立ち上げました。その中に見出しの「世界遺産マスタープラン検討住民会議」が位置づけられています。座長には佐藤一弘荻町区長、参加者には各組代表伍長、守る会役員、合掌保存組合・発展会・青年会・土産物組合・民宿組合の各代表、女性会役員、若者や女性等の意見を広く反映させるための推薦者を加えた31名で構成されています。2月25日に会議の設立にむけての話し合い(第0回会議)が行われ、3月6日に第1回の会議が始動しました。

住民会議の役割は、村でつくるマスタープランに住民の思いを強く反映させることにあります。これは村や国に「要望する」だけでなく「自分たちを見直す」取り組みでもあります。今後つくられるであろうマスタープランに対し、荻町地区の現状や課題を住民自らで洗い出し、世界遺産の継続に向けての前向きな方向を見い出していく大切な会議となります。これは、昭和46年に住民が守る会を結成した時と同等の、いやそれ以上の革新的な取り組みであると言えます。しばらくは週1回の会議を継続していきます。事務局には役場教育委員会文化財係近藤氏と住民代表から和田が選任されました。住民会議はワーキングと呼ぶ会議の代表者10名による先行会議を行い住民会議の内容を深めていきます。また必要に応じて役場担当職員や有識者、一部住民にも参加を要請し中身の濃い会議にするとともに、2か月後を目標に、住民の考えや決意をまとめ発表したいと考えています。詳しくは3月の組寄り合いで、各伍長さんよりお話があります。また、会議の内容はオープンに情報公開しますので、事務局や会議参加者にお尋ねください。そして、伍長さんを始めとする会議参加者にどんどんご意見をお寄せいただくと幸いです。マスタープランが現実的なものとなるには、住民の熱い思いと決意なくして成り立ちません。未来の白川郷や世界遺産の継続にむけて夢のある話し合いを進め、子どもたちに胸を張って引き継いでもらえる世界遺産を目指し取り組んでいきましょう。(文責：和田)

守る会の活動指針(国際フォーラム白川郷宣言より)

- (1) 隣人にやさしい心豊かで安全な共同生活のいっそうの充実
- (2) かけがえのない美しい文化遺産の保全と未来への確かな継承
- (3) 国内外の人々との文化交流を通して友好の輪の拡大

= 2月の活動報告 =

- 2月 5日 役員会
- 2月 8日 2月定例会(22名)
- 2月 11日 ねそ配布
- 2月 25日 第0回マスタープラン住民検討会議
- 2月 27日 旧寺口家屋根雪おろし
- 2月 28日 妻籠宿・馬籠宿視察研修(30名)
- 荻町区内のイベントとして2月2日、9日、10日、16日にライトアップが開催されました。

= 区民の皆様へ =

建物や土地などの現状を変更する場合は許可が必要です。必ず現状変更申請をして下さい。申請書は守る会定例会の2週間前までに財団又は各組代表の委員に提出して下さい。このことは、遺産の保全と未来への継承のためとても重要なことです。皆さんの理解とご協力をお願いします。

3月の協議事項(現状変更申請に関わって)

****...ヒサシ及び横板張り工事 ****...外構工事 ****...仮設休憩所屋根工事